

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

大型農機具で瞬く間に、耕作地に水面が広がるが昨年まで耕作していた農地が手づかずの場所が気になる。猫の手も借りたい手植え

の時代は、学校に「田植え休み」があった。農家の子には、家族で過ごす楽しさもあったが、つらい1週間。秋の「稲刈り休み」とは違って、雨の日も手伝いに駆り出される。使いつらい「かっぱ」で苦戦した思い出を持つ年代も年々少なくなるばかりだ。

今年3月に死去した宮城まり子さん。歌手・俳優として活躍するかたわらに、肢体不自由の子供たちのための施設「ねむの木学園」を1968年に設立し、長年にわたって教育や福祉活動に尽力し、園生から母親のよ

うに慕われた。宮城さんが語った言葉「子どもたちの世話をするようになって、母の手に。一生懸命努力していたら労働者の手に。女性の手は歩んできた道をも雄弁に語る」と。親として、多忙を極める

著者『教養は児童書で学べ』で「子どもの頃に本をたくさん読んでおく、その時は分からなくても大人になっ

こんな時代だからこそ「本」 との生活を楽しもう

中、経済的にも厳しい毎日を子供達と一緒に過ごせた時代から、今の子供達に親として、行動を通じて地域の何を伝えて行けるのだろうか。

ライフネット生命創業者の田口治明さんが



営農を支えるJA北部育苗センター。これからの農業を支えるJAの活躍に期待したい

かった「本」との貴重な時間が、これからの人生にきつと役立つと信じた。読書では、人生の全てを決して単純で無いことを教えてくれたはずだ。これがらの時代も、今以上の複雑さに耐えて生き、子供たちを見守り続ける社会が必要になっていくのだろう。

私自身も書棚にある、積んだままの書籍を読み返す貴重な時間に恵まれた。その中で、2017年に刊行された河合雅司さんの著書『未来の年表』。このまま人口減少が進むと、将来の日本はどんな姿になるのか、緻密なデータから導き出した内容は、累計で88万部突破の大ベストセラーとなったが、新型コロナウイルスは想定されず感染拡大で、今

後どの様な社会にと、上書きされるか気になるところでもある。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)